

NEWS LETTER

ニュース・レター
2006 AUTUMN&WINTER
vol.23

衆議院議員
岡田かつや



ごあいさつ

衆議院議員 岡田かつや

民主党の代表を辞任してから1年が過ぎました。この間、国会では予算委員として連日委員会審議に出席し、私も計5回質問に立ちました。党では常任幹事として、引き続き党運営に参加してきました。また、NGOの国際支援活動を推進する議員連盟や核軍縮・不拡散を促進する議員連盟を新たに立ち上げ、パキスタン、イラン、ケニアといった国々を訪れて自分の目で直接現地の状況を見てきました。国内でも、落選した若い議員や新人候補者を訪ねて回りながら、各地の工場や施設を見て歩き、地域や現場の知恵とエネルギーを再認識しました。

そして何より、毎週地元に戻って200回を超える集会を重ね、5,000人以上の方と直接お話しできたことは最大の収穫でした。皆さんから多くのことを

学びながら、そういった皆さんに今まで支えていただけてきたことを改めて実感しました。このように、「充電期間」と位置付けたこの1年間は存外忙しく、そして大変充実していました。9月に小沢一郎さんが代表に再選され、新執行部の発足に伴って私は副代表に就任しました。引き続き政治家としての研鑽を重ねながら、党が一致団結して政権交代を実現できるような、副代表として執行部をしっかりと支えていきたいと思っています。

来年は統一地方選挙、参議院選挙、そしてその先には総選挙と続きます。いよいよ政権交代の時が近付いてきたと、改めて気を引き締めています。今後とも皆さんのご支援をよろしくお願い申し上げます。

KATSUYA'S REPORT



国会論戦ハイライト

安倍総理誕生の直後、10月6日の衆院予算委員会で岡田かつやが質問に立ちました。1時間半にわたって総理の基本認識をたじましたが、その答弁は政権の問題点を浮き彫りにするものでした。



の目標を達成するためには、いまのうちにもっと深掘りして削減すべきだ。

総理 サービスの低下など留意点も念頭に、深掘りができるのであれば努力する。

岡田 財政再建をやろうとしたら、できるときに思い切ってやるべきだ。5年間で少しずつ、では厳しくなる。ロケットスタート、最初が大事だ。

歴史認識問題

岡田 総理は「A級戦犯は日本において犯罪人ではない」と言ったが、いまも同じ認識か。

総理 日本の国内法上、犯罪人ではない。

岡田 日本の法律で裁かれたのではないのだから、それは当然だ。しかし日本は東京裁判を受け入れ、サンフランシスコ平和条約を結んでA級戦犯を認めた。条約は国内法に優先する。日本において犯罪人だと言わざるを得ない。

総理 私はそう考えていない。サ条約を受け入れなければ独立できなかった。国会で赦免決議がなされ、釈放もされた。

岡田 それは減刑されただけで、罪は罪として残っている。認識が違う。

総理 国内法的に犯罪人ではない。犯罪人と呼ぶわけではない。

岡田 そうすると、61年前の戦争について責任を負うのは誰なのか。

総理 政府が判断する立場にない。

岡田 私も東京裁判を全面的に肯定するわけではない。しかし総理のように言うてしまうと、戦争の責任について政府は全く無知無知ということになる。

総理 それは歴史家の仕事であって、政府が判断する立場にない。

岡田 私が当時の指導者だったとして、果たして間違いない判断ができたか。戦争への道を行ってしまっただけかもしれない。しかしリーダーというものは、結果責任も含め、その時々できちんとした判断をしなければならぬ。やはりA級戦犯には責任がある。

イラク戦争の正当性

岡田 イラクで大量破壊兵器は見つからなかった。総理は「存在すると信ずるに足る理由があった。開戦支持は正しかった」と言っているが、誤りを認めて謝罪すべきだ。

総理 当時は合理的な理由があった。

岡田 しかし、それが間違っていた以上、責任を認めるべきだ。それを回避しては、他国から尊敬される国にはなれない。

総理 何でもないというだけで攻撃しているのか、戦争で5万人以上のイラク人が亡くなった。その責任を認めなければ「美しい国」とは言えない。

岡田

年金制度改革

岡田 総理は「年金の破綻とは1円ももらえなくなることだ」と言っているが、1円でももらえれば破綻ではないのか。

総理 期待している年金額を受けられなくなれば破綻だ。

岡田 いま約束している、将来の年金の最低額と保険料率の上限が持続できなくなれば、それは破綻だ。

総理 出生率などが大きく変化すれば、年金額や保険料を見直すとは法律にも書いてある。

岡田 総理は「払い損になることはない」とも言っている。しかし、いまの制度を維持できなくなれば、しわ寄せは働く世代に来る。まさに払い損だ。

総理 平均寿命まで生きれば、年金額が払った保険料以下になることはない。

岡田 総理は公務員と会員の年金制度を統合すれば、それで抜本改革は終わりと考えているのか。

総理 官民格差をなくすため、まずできることからやる。しかし国民年金との統合は、自営業者の所得を把握できるかなど、いろいろ問題がある。それは日本国総理大臣に言ってもいいくない。年金だけでなく、介護医療も所得水準によって保険料負担が変わる。上手く誤魔化した人が得をするのが「美しい国」なのか。国民の責任として払うべきものは払う、私はそういう国を目指したい。

格差社会

岡田 小泉前総理は「格差の拡大は悪いことではない」と言った。総理も同じ認識か。

総理 頑張った人が報われることが大切で、ある程度差が出るのは当然だ。しかし、1回失敗しても何度でもチャンスのある社会をつくってほしい。

岡田 努力した人が報われる社会というのは誰も異論ない。しかし、努力しても報われない人もいて、実はそういう人が大半だ。それを忘れずに、政治家は対応していかなければならない。そしてもう一つは、中間層の厚みを大事にすべきだ。それが日本の良さであり、強さだ。

財政再建と歳出削減

岡田 歳出削減のチャンスは来年度予算編成がなされるこの年内だ。思い切ったもう一段の具体的プランを出さないと、結局は増税になる。

総理 来年度予算では新規国債発行額を今年度以下に抑える。そして、今後5年間で成長戦略をしっかりと実行し、自然増収を図る。

岡田 認識が甘過ぎる。例えば、公共事業の削減についてどう考えるのか。各省庁の抵抗に対し、どうやってリーダーシップを発揮するのか。

総理 メリハリをつけながら、当然削減には取り組んでいく。分担管理している財務相が責任を持ってやっている。

岡田 分担管理は結構だが、本気でやろうとする仕組みが要る。いままでの延長ではできない。次に公務員人件費の削減だが、5年後

憂楽帳



“現場”を見て、“現場”から学ぶ。

地元企業の、働く現場を見せていただいていることは、働き方の大きな変化です。派遣・パートなどの働き方が拡大しました。様々なニーズがあり、多様な働き方があることは当然です。しかし同じ仕事でありながら正規社員との大きな賃金格差や、年取150万・200万しかない世帯主が増えたり、雇用の不安定などは問題です。外国人労働者も増えました。日系人の皆さんの話を聞く機会がありましたが、多くの人々が日本への定住希望です。しかし単純労働の分野に外

国からの移民は受け入れられないというのが政府方針です。経済のグローバル化の中で、競争を生き抜くために労働コストを下げる必要に迫られる企業の厳しめはひしひしと伝わってきます。しかし日本全体で見れば、格差が拡大したり、外国人との様々な摩擦が生じるなどの問題が発生しています。現実がどんどん進んでいるのに対して、政治や行政が追いついていません。先送りは許されない大きな問題であると感じています。

岡田かつや



WORLD REPORT

ケニア訪問記

ビクトリア湖の島々で貧困とエイズの問題を視察

サハラ以南アフリカの最大の問題である貧困とエイズの現状を見るため、三日月大造、森本哲生各衆議院議員とともに、7月31日から1週間、ケニアを訪問しました。



7/31

中部国際空港からバイ経由でケニアのナイロビに着。高地にあるため思ったよりはるかに涼しい。さっそくUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)の関係者から、ソマリア、スーダン南部からの難民について話を聞く。夜は三重県出身の宮村大使がケニアの日本人に声をかけていただき夕食会。UNHCR、NGOいずれも日本人女性のパワーを改めて感じる。

8/1

キプワナ環境大臣、アウォリ副大統領と意見交換。日本の援助は日本の納税者の負担によってなされており、腐敗の問題が解決しないと援助に国民の共感が得られない旨、私から指摘。エイズの問題については解決しつつあるとのやや楽観的見方が示された。本当だろうか。午後にはNGO「セイブ・ザ・チルドレン・センター」の菊本さんの案内で、ナイロビのスラムを歩く。スラムの自立支援活動を続けてこられた地道な努力に脱帽。NGOの奨学金で大学を卒業した青年が、スラムの改革に取り組む姿は感動的だった。

8/2

ケニア第5の都市キスムの公立病院訪問。設備や薬の不足は深刻。霊安室には30体以上の遺体が丸木のように積まれていた。死因の50%がエイズで、既に制御の範囲を超えているとの院長の説明は、前回のナイロビでの政治家の話とは全く違っていた。午後からは、NGO「少年ケニアの友」の岸田さんともに、少年サッカーの試合観戦。エイズを食生活と薬で克服しつつある女性達との交流。浄水プロジェクト、日本型のかまど普及プロジェクトなど視察。1つのNGOがこれだけ幅広く活動していることに驚く。車とフェリーで4時間かけて夜10時ホテル着。電気なしの中で蚊取り線香を2つたい寝る。明日はよい島へ出発だ。

8/3

10人乗りボートでムファンガン島へ出発。ビクトリア湖は湖とは言え四国の十倍規模。まさしく海という感じ。まず、タカウイ島で小学校を訪れる。人口約300人の島で50%超がHIVポジティブで、80人の子ども達にもかなり孤児がいると言う。次の目的ファンガン島では、カトリックの神父と議論になる。コンドームを使うことを奨励することは、不道徳なセックスを認めることになるとの説明に納得できないのを感じる。

8/4

朝から海が荒れ、午前中の訪問予定の2つの島行きをキャンセル。子ども達と遊ぶ。本当に可愛い子ども達だが、HIVのリスクは彼等にも迫っている。三日月、森本両議員や岸田さんと雑談しながら海が安定するのを待つ。慎重に判断した上で出発。10人乗りのボートなので、雨が降ったり、波が高くなったりすると危ない。何となく無事に60分かけて前日出発した港に降り着く。キスムへの途中に、岸田さんのNGOが奨学金を出している少年に会いに行く。おばあさんと少年2人が粗末な小屋に住む。両親は数年前に相次いで亡くなったと言う。HIVの可能性が高い。妹2人はいなくなったと言う。少年達を育てるために売られてしまったのではと思ってしまふ。貧困こそがすべての根源との思いを強くする。しかし、2人の少年はいずれも村のために医師を目指すと明るく言う。目が輝いている。アフリカのために日本ができることは沢山あると思う。同時に、頑張っている日本人の姿に本当に感動させられた1週間だった。

8/5

夕方の飛行機までの時間を利用して、午前中、ナイロビ市内の国立公園へ。短い時間ながら、ダチョウ、シマウマなどの野生動物を見ることができた。昼食は通訳のウォルターさん経営の現地サラリマン向け食堂で最後のケニア料理。トウモロコシやキビの粉でつくった食事や野菜がおいしい。そういえば、イランでもパキスタンでも食事がおいしく感じられた。胃袋の強さには自信を持ってよさそうだ。

おかげさまで健康のうちに、無事帰国。しかしNGOの岸田さんと現地に残ったスタッフが腸チフスになったと後で聞いた。気をつかせてしまったか申し訳ない気持ちになる。

8/6

夕方の飛行機までの時間を利用して、午前中、ナイロビ市内の国立公園へ。短い時間ながら、ダチョウ、シマウマなどの野生動物を見ることができた。昼食は通訳のウォルターさん経営の現地サラリマン向け食堂で最後のケニア料理。トウモロコシやキビの粉でつくった食事や野菜がおいしい。そういえば、イランでもパキスタンでも食事がおいしく感じられた。胃袋の強さには自信を持ってよさそうだ。

8/4

朝から海が荒れ、午前中の訪問予定の2つの島行きをキャンセル。子ども達と遊ぶ。本当に可愛い子ども達だが、HIVのリスクは彼等にも迫っている。三日月、森本両議員や岸田さんと雑談しながら海が安定するのを待つ。慎重に判断した上で出発。10人乗りのボートなので、雨が降ったり、波が高くなったりすると危ない。何となく無事に60分かけて前日出発した港に降り着く。キスムへの途中に、岸田さんのNGOが奨学金を出している少年に会いに行く。おばあさんと少年2人が粗末な小屋に住む。両親は数年前に相次いで亡くなったと言う。HIVの可能性が高い。妹2人はいなくなったと言う。少年達を育てるために売られてしまったのではと思ってしまふ。貧困こそがすべての根源との思いを強くする。しかし、2人の少年はいずれも村のために医師を目指すと明るく言う。目が輝いている。アフリカのために日本ができることは沢山あると思う。同時に、頑張っている日本人の姿に本当に感動させられた1週間だった。

8/5

夕方の飛行機までの時間を利用して、午前中、ナイロビ市内の国立公園へ。短い時間ながら、ダチョウ、シマウマなどの野生動物を見ることができた。昼食は通訳のウォルターさん経営の現地サラリマン向け食堂で最後のケニア料理。トウモロコシやキビの粉でつくった食事や野菜がおいしい。そういえば、イランでもパキスタンでも食事がおいしく感じられた。胃袋の強さには自信を持ってよさそうだ。

8/6

おかげさまで健康のうちに、無事帰国。しかしNGOの岸田さんと現地に残ったスタッフが腸チフスになったと後で聞いた。気をつかせてしまったか申し訳ない気持ちになる。

活動 2006.5 ▶ 2006.11 報告

2006年 5月

1~7日 イラン訪問
モッタキ外相と核問題について徹底的に議論。

22日 恒例の政経セミナーを津市、四日市の2会場で開催。両会場併せて約300名が参加。

2006年 6月

18日 桑名市商店街で、街頭演説会を開催。地元の日沖・三谷両県議も参加。

2006年 7月

24日 約200名に参加いただき名古屋政経セミナーを開催。

2006年 8月

20日 後援会地区代表幹事会を開催。今後の活動(座談会開催・組織作り)について相談。

22日 民主党の中に新たに立ち上げた「核軍縮促進連連」の設立総会を開催。20名強が出席し、私が会長に就任。

29~31日 3日間、淡路島で開催された日韓フォーラムに参加。日韓の政治家、学者、経済人など約50名が参加して、日韓両国の問題を徹底的に議論。

2006年 9月

9日 「政治スクールみえ」も発会から6カ月経ち、今日は第6回目を開催。

22日 国会開会。閉会中、地元企業の訪問120社、その他ロボット・航空宇宙・自動車などの先端工場視察、落選中の衆議院候補者の訪問など実施。

23日 約200名の党員・サポーターの方々参加のもと、民主党三重県第3区総支部臨時大会を開催。無投票で小沢代表が再選されたことを報告。

2006年 10月

1日 近鉄四日市駅前で、街頭演説会を開催。高橋千秋参院議員、中川正春衆議院議員などが参加。

2006年 11月

3日 今年2月4日にスタートした座談会が200会場目の開催。参加者も5,000名を超えました。

4日 菅代表代行と熊野古道と尾尾市の速水林業を視察。その後熊野市で県内の森林関係者と懇談会。

INFORMATION

党員&サポーター募集

民主党を応援してくれる方、民主党員またはサポーターになりませんか?平成19年度の党員・サポーターの登録は新年より行ないます。継続の方、新規登録の方よろしくお願致します。

●年会費/党員 6,000円 サポーター 2,000円

●お問い合わせ先/TEL:059-361-6622

岡田かつやホームページのご案内

発言ライブ러리。毎月の活動報告など最新情報をお届け。集中連載企画「小泉政治との5年——改革と外交を検証する」が今、注目されています。ぜひ、お気軽にアクセスください。

●http://www.katsuya.net/

私の近況

出番を待っている、私のお気に入りのモノ達。

今年10月の衆議院補欠選挙以来、福岡市長選、福島県知事選と全国の選挙の応援に走りまわっています。

来年は選挙の年です。2月の愛知県知事選・北九州市長選、4月の衆議院補欠選、そして統一地方選など大切な選挙が予定されています。とくに7月に予定される参議院選は政権交代実現のための重要なステップで、私も候補者が決定された一人区を中心に応援活動をスタートさせています。

代表の時から愛用している移動中に映画やニュース番組を見るためのDVDプレーヤーや、短時間で食事がとれる携帯食、足を痛めないためのウォーキングシューズなどの出番が、また増えそうです。





熱論

現在、民主党副代表として新しい党づくりや政権交代への態勢づくりに精力的な活動を行なっている岡田かつやと参議院議員として6年間、地方自治や農業問題を中心に東奔西走している高橋千秋氏が、当面する多くの政治課題や日本の将来を大きく左右する2007年7月の参議院選に向けての意気込みなどを熱く語り合った。



衆議院議員 KATSUYA OKADA



参議院議員 CHIAKI TAKAHASHI

岡田かつや × 高橋 千秋

来年の参議院選で、与野党逆転の大きなうねりを巻き起こそう！

高橋千秋プロフィール
昭和31年生まれ、50歳。2000年の参議院三重選挙区補欠選挙で初当選、翌年第19回参議院選で再当選を果たす。「生活者宣言」を掲げ、生活者の立場に立った政治改革をめざし、精力的な活動を展開している。

高橋氏の活躍と地方分権の課題

岡田：高橋さんも参議院議員になられて丸6年。当選2回、来年は3期目の挑戦ということになりますが、過去2回の選挙は、本当に厳しい選挙だったと思います。特に今回は、小泉さんが総理になった直後で、逆風の中での選挙でした。一人区が当時27あり、民主党系が勝ったのは、三重県と岩手県だけで、2勝25敗でした。そんな中で県民の皆さんに支持をいただいて5年間、農業の問題や地方の問題に取り組む、大変な活躍だったわけですが、6年間を振り返ってどのように総括されますか。

高橋：わたし自身はずっと選挙していたような気がします。この前、丸1日休んだ日を計算したら、6年で5日間でした(笑)。とにかく走り回っていた6年間だったと思います。わたしが所属していたのは総務委員会でしたから、地方自治・分権についてやってきました。ずっと現場を歩いてたような気がしますね。

岡田：高橋さんは民主党の中でも、地元と東京の間を往復する回数多きで有名ですね。参議院は、全県選挙区で大変なんですけど、非常にきめ細かく地域を歩いておられると思います。その問題意識の中でこの前の予算委員会での論戦はどうでしたか？

高橋：「地方の再生と格差」ということをテーマに、障害者自立支援法をまず上げました。障害者の方々や障害者の両親からメールや電話をたくさんいただきました。非常に反響が大きくて、いろんな方からメールいただいたり、ホームページに書き込みがありました。おおむね応援してくれる方が多かったなと思います。障害者自立支援法については、わたしが質問する前日に民主党から改正法案を出しまして、1割負担を元に戻すという法案だったんですが、これを中心にやらしてもらいました。

岡田：わたしも、この夏はかなり地元を歩いたんですが、地域を歩くことで初めて見えてくるものがたくさんありますね。さっきおっしゃった障害者自立支援法は、1割の自己負担が定められています。それが月額1万円にも満たないような収入しかない中で、いかに過酷なものであるかということは、やはり当事者の話を聞いて初めてわかることで、東京で官僚から聞いたのでは分からないと思います。地域のことは地域を歩くことで見えてくる。それが政治家と官僚の違いだと思うんです。高橋さん、三重県を歩いててどういったことを感じますか。

三重県の現状と課題

高橋：三重県は厚厚な人が多くって、よそに比べて住みやすいところですね。でも、県内の中の格差が進行していて、本当に同じ県なのかと思うことがよくあります。特に北勢地域は元気な話が多いんですが、南へ行くくと高齢者ばかりの地域

も多く、「どうしたらいいんだろう」というような話もよく耳にします。同じ県の中で格差の開きが出てきていると思いますし、合併に伴って大きな市になりましたので、同じ市の中でも格差はありますが、確かに南北の差は感じますね。北は製造業がありますが、南にはそれがほとんどない。林業や漁業が中心です。日本にとって第1次産業は、非常に重要なものなんですけど、農業も含めてそういうところに光があたってないなと、今の政治の中でも感じますね。

高橋：今なまた間に合うけれど、このまま放っておくと取り返しのつかない状況になる、ぎりぎりのところにきている地域というのがかなりありますね。

岡田：いままでの公共事業ばらまき型の振興策では限界だと分かっているけれど、それに変わるモデルが出来上がっていない。それは結局、農業、漁業、林業を再生していくことが柱になるべきですね。高橋さんはJA出身ということもあって、農業については詳しいわけですが、農業についてはどうなんでしょうか。

高橋：今の政府のやろうとしている方向でいくと、三重県の農業は完璧に潰れると思います。担い手の育成の集約化で4haという基準があるんですが、それでいくとどんどん離農していくことになる。大変なことになっていくと思います。三重県は特にそういう傾向が強いと思います。集落で作っているコミュニティを維持しようと思えば、民主党が提案している直接支払い制度という方向に持っていくかといけません。農協や農家の方に聞くと、民主党の政策は非常に評価されていますね。

岡田：いい政策をしっかりと伝えていく努力は必要だと思います。林業についてもこの前、菅さんに尾鷲・熊野に来ていただいたのですが、やはり今のまま間伐なしで山を放置しておく山が荒れますし、保水力がないので、災害もおこりやすい。緑の恩恵は日本全体で受けているわけですから、都市の人も含めて、林業や農業にもっと関心を持ってもらいたいと思います。

高橋：最近、漁業の方々や林業の方々で連絡をするという動きがありますね。山が荒れると海が荒れるんです。山から土が流れて、海が汚れて、魚が捕れなくなるんです。漁業、林業、農業と第

一次産業の方々で連絡をして、地域を活性化していくことを政策の中に入れていかないといけないですね。

岡田：それに対して都市の住民ももっと関心を持ってもらいたいということですね。わたしは地域の特性を活かすためにも分権が大切だと考えています。今の補助金方式をやめて、権限を思いきって市町村に委ねようというのが民主党の主張です。本来市町村にはもっと力があるはずで、もったいないことに取り組むという意欲が出てくるはずですね。仕組みそのものを変えようというのは、今の政権と与党ではできません。族議員もいれば、中央省庁の権限もありますから。そういうものを大きく変えていくのは民主党にしかできない。

高橋：今の与党は地方の人をあまり信用していない感じがしますね。それぞれの自治体で非常に優秀な人がたくさんいますし、頑張っている人もいます。そういった人々を応援する政策ではなく、中央の権限を残そうとする政策がとられています。与党はそれを変えようとはしませんから、やはり民主党でないとそこは変わっていきませんね。

安倍政権の実像

岡田：小泉さんの三位一体改革というのは、そもそも権限は中央に残したままということで、これは失敗だったと多くの市長村長や知事が認めています。じゃ安倍さんになって変わるかということ、安倍さんの所信表明でも地方分権の語ってほとんど出てこないですね。具体的な理念も具体策もない。安倍さんのもどで分権は進まないだろうとわたしは確信していますよ。

高橋：予算委員会でも、三位一体改革をどう評価するかと質問したんですが、「地方からは評価されている」と答弁したんですが、それで与野側からも失笑がもれたんですけど、そういう認識はないのかなとびっくりしましたね。

岡田：安倍さんが総理になって、わたしも高橋さんも予算委員会で安倍さんと議論をしています。具体論がほとんどないというのがわたしの印象です(笑)。それから歴史認識、外交のところは本質は変えていませんが、とりあえず言い方を変えましたね。戦後50年村山談話は「自虐的だ」と非常に厳しく批判していたのが、安倍政権として受け継ぐと言われました。変わった方

向はわたしは正しいと思いますが、じゃあどうして過去にあいう言い方をしてきたのかと疑問に思います。あまりにも軽すぎるのではないかと思います。

高橋：わたしは地方の具体的な話を例に出して議論したんですが、なにか感情がこもってないように思いました。実感が伴っていないんですよ。われわれとしては、安倍さんにどう対抗していくのか考えていかないといいないんですが、やはり小沢さんが言う「政治は生活だ」という言葉に共感しますね。わたしも生活者の声を国政に届けるということやってきたので、まさにその言葉と一致するわけです。そこが民主党として訴えていかなければいけないところかなと思います。

岡田：年金の問題をとっても国民の皆様は多くは、きちんとした年金がもらえるのかと心配しておられると思うんですよ。安倍さんは「破綻はないし、払い損はありません。2年前の改革できちんと出来ている。」と言われているんですが、2年前の改革で大丈夫なはずがないんです。

高橋：わたしもその質問をしたんです。出生率が下がり続けて、年金の基本的な部分から崩れていますから、見直す必要はないのかと質問をしたんですが、当面は考えてないとおっしゃった答弁で終わりました。

2007年7月の参議院選は政権交代への正念場

岡田：結局、政権交代でしか仕組みを大きく変えるということではないですね。小泉さんも自民党が「ぶっ壊す」と言ったけれど、自民党は壊れなかった。やはり、政権交代だと思います。そのためにも、来年の参議院選挙ですね。

高橋：そうですね。これに勝たないと入口にも立てませんので、ここが大きな山場ですね。日本を変えられるかどうかという大きな山場だと思いますね。

岡田：5年前2勝25敗だったのが、2年前の参議院選挙では13勝14敗でした。全体の議席でも民主党が自民党を上回り、投票数でも上回った。同じような形で来年結果を出せば、参議院では与党と野党が逆転します。そうなるといろんなことが変わってきますよな。

高橋：あと16ひっくり返せばとぼくは言っているんですが、2年前の岡田さんが代表だった時の選挙ぐらいの戦いができれば、完全に参議院の方は与野党逆転になりますから。そうなれば当然衆議院にも影響が出てくる。本当に大きな山場だと思いますね。

岡田：そうですね。まずこの選挙で、与野党逆転を実現させるということですね。わたしも副代表として、全国を走り回ろうと思っています。しかし、まずは足元ですね。わたしは高橋さんの選対本部長を引き受けています。三重県は絶対に負けるわけにはいかない選挙区です。高橋さんの良さを少しでも多くの人に理解していただきながら、頑張っていきたいと思っています。

高橋：わたしも全力で頑張ります！



活力と個性ある 県づくりをめざす 7人 メッセージ



三重県議会議員 桑名市 桑名郡 三谷 てるお

代議士の秘書を経て県議3期目です。現在県議会最大会派「新政みえ」の代表を務めています。県民の立場で政策を作り、県民とともに執行を監視し、県民の目線で評価する。そんな県議会創りに頑張っています。



三重県議会議員 桑名市 桑名郡 西塚 宗郎

皆様のご支援をいただき県議3期目を務めさせていただいています。今、三重県は、北勢地域中心に元気がよいと言われています。この元気を持続させ、県政の発展に向け「ひたすらがモットー」を信条に頑張っています。



三重県議会議員 四日市市 藤田 やすき

県議2期目を務めています。前職は中学校教諭でした。県政においても子どもを守る・育てるが使命と思っています。命題でもある子どもの課題や福祉の問題を通して、豊かで活力ある三重県づくりに邁進しています。



三重県議会議員 桑名市 日沖 正信

山本幸雄代議士、岡田かつや代議士の秘書として大安町議(3期)を経て現在県議2期目です。素朴な生活実感をそのまま県政に持ち込むことが私の役割と考え、庶民の常識で語れる三重県政づくりに力を注いでいます。



三重県議会議員 三重郡 たち直人

28年余りの菟野町役場勤務を経て県議になり、一期目です。慣れない事ばかりでしたが、「県政をもっと身近に!地域をもっと元気に!」の気持ちで、地域活性化対策調査特別委員会に属し、地域の活性化に力を入れています。



三重県議会議員 四日市市 いながき 昭義

県議一期目です。先輩方に教わりながらも、「子どもや孫の世代に胸をはって残せるまちを創るため、私たちに責任がある」との想いで、志を同じくする仲間達とともに、誇りある三重県創りに力を入れています。



四日市市議会議員 水谷 正美

四日市市議会議員2期目を務めています。岡田かつや代議士秘書時代を含め13年目となる政治活動の経験を活かして、21世紀初頭の新しい「郷土三重」のあるべき姿の立論に懸命に努力を行なう所存です。